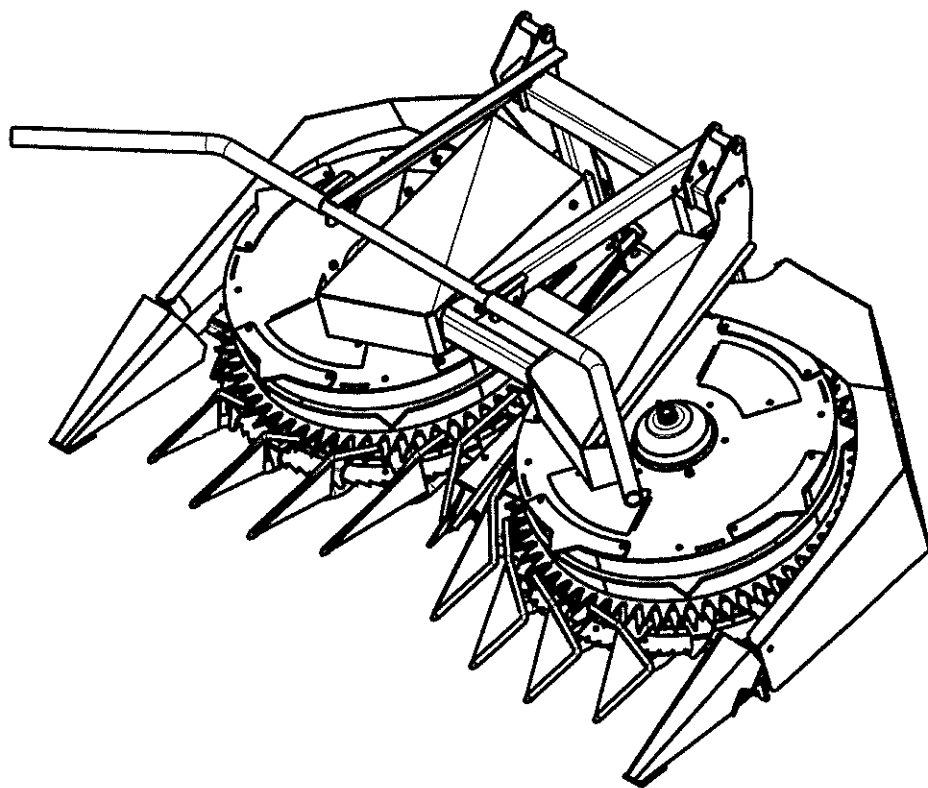


取扱説明書及び部品表



汎用型飼料収穫機用
マルチヘッド

SMR-MH



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も大切に保管してください。

株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**マルチヘッド**の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。
ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みの上、正しくお取扱いただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡してください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または弊社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として知っておくとお得な製品の性能や、製品自体の損傷防止に関する留意事項を書いています。
- なお、品質・性能あるいは安全性の向上のため、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

警 告 サ イ ン

 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

目 次

▲安全に作業するために	1
本製品の使用目的とサービスについて	12
各部の名称とはたらき	13
アタッチの着脱のしかた	14
1. アタッチの着脱時の注意	14
2. 着脱準備	14
3. アタッチの着脱のしかた	15
収穫作業のしかた	18
1. 刈取りできる作物の条件について	18
2. 倒伏した作物の刈取り	18
3. 刈取り方向	18
4. ほ場の準備	19
5. 刈取り方法	19
6. 広いほ場の刈取り方法	20
7. 横刈り時の刈取り方法	20
8. 収穫機の準備のしかた	20
①ストークガイドの調節	21
②センターカバーの位置変更	21
③デバイダの変更	22
作業後の手入れについて	24
1. 機体の洗浄のしかた	24
2. マルチヘッドの掃除のしかた	25
3. 各部の注油のしかた	25
4. 各部のグリスアップのしかた	26
各部の点検・整備	27
1. 定期点検一覧表	27
2. 規定量一覧表	27
3. オイル一覧表	27
4. 主要消耗品一覧表	27
5. ミッションオイルの交換のしかた	28
6. 駆動チェンの調節のしかた	29
7. 入力クラッチトルクの調節のしかた	29
8. 摩擦板の交換のしかた	30
9. ナイフの交換のしかた	31

⚠ 安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある⚠ 表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解した上で使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

機械を他人に貸すとき、または他人に運転をさせるときは、運転の仕方を教え、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください

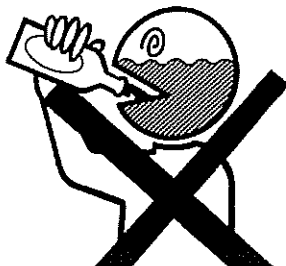
(1) 安全指示順守

- 本書及び機械の警告ラベル・注意ラベルをよく読み理解してください。
- 警告ラベル・注意ラベルはいつもきれいにしておいてください。
- 破損・紛失したときは、注文して再度貼付けてください。
- 正しい運転、作業方法を覚えてください。
- 製品を勝手に改造しないでください。安全性をそこなったり、機能や寿命低下の原因になります。
- 本書記載事項以外についても、安全には細心の注意を払ってください。



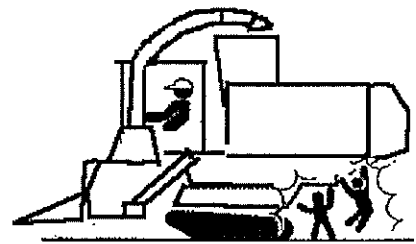
(2) 適格者運転

- 運転操作には的確な判断が必要です。
- お酒を飲んでいる方、睡眠不足の方、妊娠中のご婦人、18才未満の方、過労、病気の方は使用しないでください。
- 初めて運転する人は操作に慣れるまで低速で運転してください。



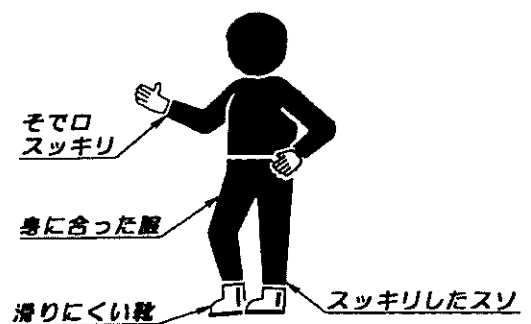
(3) 子供が近づくのは危険

- 点検・整備中及び収穫作業中、機械に子供を近づけないでください。見えない所で機体にさわったり、かくれたりして危険です。



(4) 使用する人の服装

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



⚠ 安全に作業するために

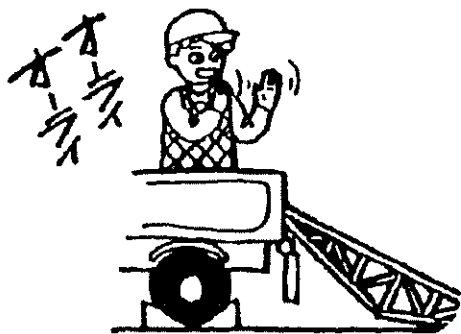
2. 走行・輸送するときは

(1) 公道走行はできません

本機は公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。公道を移動するときはトラックなどで運送してください。

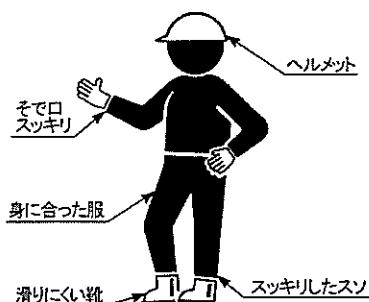
(2) トラックなどへの積込み・積降しは

平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを止め、サイドブレーキをかけ、車止めをし、幅・長さ・強度が充分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で行なってください。積込んだ機械は車止めをし、強度が充分にあるロープで確実に固定してください。



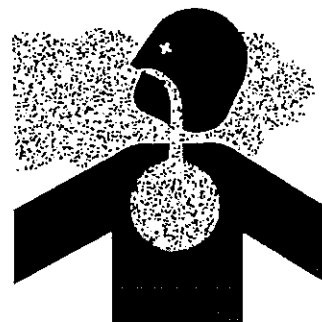
(3) 安全な服装

- 運転者・補助者とも作業に適した服を着用してください。
- レバーや作動部に誤って引っ掛かり、ケガをすることがありますのでだぶついた服は、着用しないでください。また、そで口はきっちりと止めてください。
- はち巻き、首巻き、腰タオルの着用は禁止です。
- サンダル、スリッパなどの履物の着用は禁止です。



(4) 排気ガスに注意

- エンジンの排気ガスは有毒です。
- 屋内で運転するときは、適切な換気をしてください。
- 排気管を屋外に延長するか、ドアや窓を開け、外気が充分入るようにしてください。



(5) 燃料の取扱いは安全に一火気厳禁

- 燃料は非常に燃えやすく危険です。取扱いには充分注意してください。
- 燃料補給するときはエンジンを必ず止めてください。
- 燃料補給中は火気厳禁です。くわえタバコや裸火照明は近づけないでください。
- 燃料やオイルをこぼしたときは、きれいにふき取ってください。

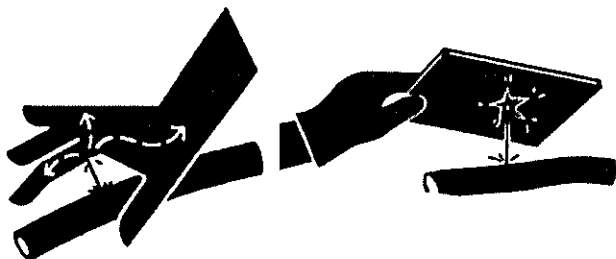


⚠ 安全に作業するために

3. 点検・整備をしてください

(1) 定期点検整備

- 1年ごとに定期点検整備を受け、各部の保守をしてください。
- フューエルパイプ、ラジエータホース、オイルドレングムホースは2年ごとに交換してください。（“定期交換”の項参照）
- 電気配線は毎年点検してください。（“定期点検と調整”の項参照）
- 高圧噴油が皮膚に浸入すると危険です。
- 燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは厚紙や板などを使って点検してください。高圧噴油に直接、手や体を触れないようにしてください。もし、高圧噴油に触れた場合、直ちに医者診断を受けてください。油が皮膚に浸入した場合、数時間以内に取除かないと壊疽（えそ）にかかる恐れがあります。



(2) 作業前点検（日常点検）の実施

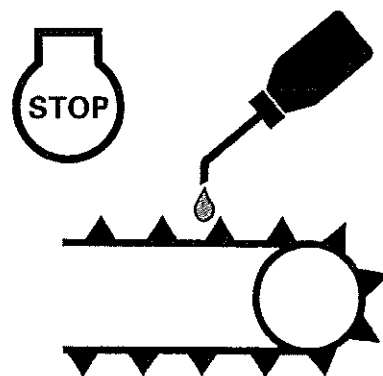
- 運転の前には点検項目（“日常点検項目”の項参照）の点検をしてください。異常があれば整備してから運転してください。



- 点検・整備・調整・掃除・給油・グリスアップするときはエンジンを必ず止めて

ください。

- ベールクラッチは“切”にし、駐車ブレーキを掛けてください。
- マフラ部周辺・ベルトカバー内・配線部・バッテリー周辺に、作物くずがたまっていると火災の原因となりますのできれいに取除いてください。
- 燃料・オイル・グリースは指定のものを使ってください。
- 取外した安全カバー、保護カバーは必ず取付けて作業してください。



(3) ナイフに注意してください

ナイフ類は、絶対に素手で触れないでください。必ず手袋などの保護具を着用してください。

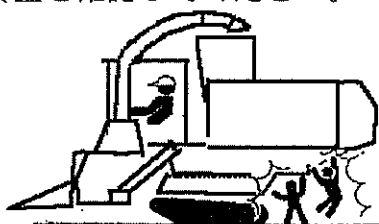


⚠ 安全に作業するために

4. 作業・移動するときには

(1) 機械を動かす場合は安全に注意

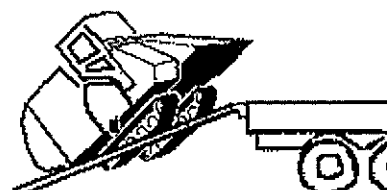
- 機械を動かす場合は周囲の安全に気を付けてください。
- エンジンを始動するときは、運転座席に必ず座って、変速レバーを“中立”にし各クラッチを“切”にし、ホーンを鳴らすなどの合図をしてください。
- 機械を発進するときやクラッチを入れるときは、ホーンを鳴らすなどの合図をして、機械に人を近づけないでください。
- 前進・後進・旋回するときは、必ず周囲の安全を確認してください。



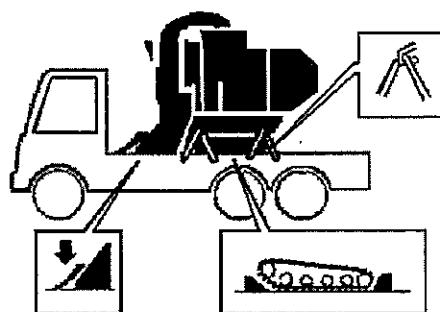
(2) 安全なトラック輸送

- 積込み・積降しはトラックの駐車ブレーキをしっかり掛けてください。
- トラックへの積込み積降しは、平地を選んで、最低速で行なってください。
- アユミ板はフックが付いているものを使用し、トラックの荷台に段差のないように確実に掛けてください。また、アユミ板は段差の4倍以上の長さで、すべり止めがあり、強度が充分ある基準にあったものを使ってください。
- アユミ板は平行において、安定していることを確認してください。
- チャンバー内は空にしておいてください。
- 積込みは前進で、積降しは後進で行なってください。
- トラックへの積み・降ろし作業は、補助者を付けて、周囲の安全を十分確認しながら行ってください。また、補助者は、機械の直前・直後には立たないでください。

- あゆみ板の途中でハンドル・副変速レバー・駐車ブレーキを操作すると、機械の移動方向が変化したり、急降下、落下する危険がありますので操作しないでください。方向を変えるときは、いったん地上又は荷台にもどって方向を修正し、再度上り下りし直してください。



- トラックの上では刈取部を床まで降し駐車ブレーキを掛け、車止めをし、ロープでしっかり床に固定します。
- 防じんカバーが開いていると風圧で破損・脱落の恐れがありますので、必ず閉じてください。
- 輸送中の急発進・急ブレーキ・急ハンドルは積荷が動いて危険ですから、絶対しないでください。



アユミ板の基準

長 さ	トラックの荷台の高さの4倍以上
幅	60cm以上
数 量	2枚
強 度	1枚が2800kg以上の重量に耐えうる

- カバー類、折りたたみ部品などは、風圧で破損・脱落の恐れがありますので、確実に固定するか、外して荷台に置いてください。

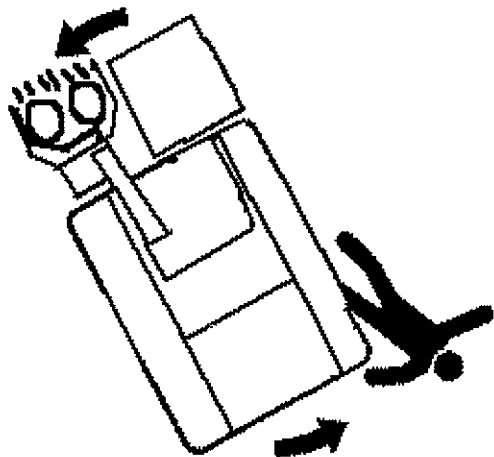
⚠ 安全に作業するために

(3) 安全な移動走行

- ステップ、サイドデバイダは収納して機体幅を狭くしてください。
- デバイダヘッドは取外してください。
- 各作業クラッチを切り、運転者以外乗らないでください。
- 自動車体水平制御は、機体を一番下げた状態にしてください。
- ロールは排出してから移動してください。
- リヤケースは必ず閉めた状態で移動してください。

(4) 高速走行の場合の注意

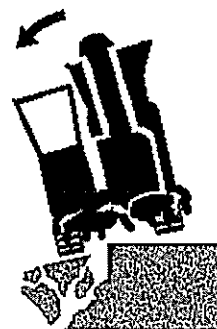
- 高速走行するときに、急激なハンドルの操作をすると急旋回し危険です。
- 方向を変えるときは速度を低速にしてください。



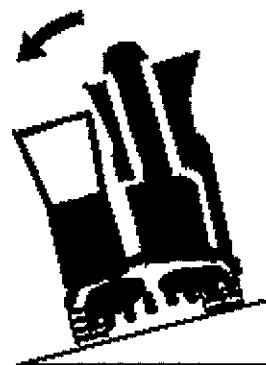
- 刈取り作業のとき以外は、エコモード切替スイッチを「切」にしてください。

(5) 転倒・転落注意

- 転倒・転落は重大事故になります。
- 溝・穴・土手の近くは路肩が弱いことがありますので、走行しないでください。
- 道幅に余裕がなく高所にある道路（土手）で運転を誤ると、転落して死亡事故になることがありますので走行しないでください。



- 刈取り作業時以外（特にあぜ越え時、移動走行時、運搬時、格納時）はロールを排出して、クラッチを“切”にしてください。
- 坂道走行・ほ場の出入口・傾斜地作業は転倒・転落の危険があります。注意してください。
- 坂道の途中や傾斜地では速度を落としペダル・変速レバー・ハンドルを操作しないでください。
- 斜め走行は危険です。機械を傾斜の方向に合わせた作業（走行）をしてください。
- 坂道・傾斜地で旋回はしないでください。



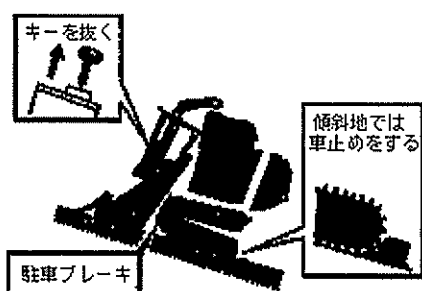
⚠ 安全に作業するために

- 10 cm以上の段差のあるところでは、段差の4倍以上の長さで滑り止めがある基準にあったあゆみ板を使ってください。
- 低速で段差に直角に進入してください。
- 途中でペダル・変速レバー・ハンドルの操作はしないでください。



(13) 安全な駐車のかた

- 駐車するとき（運転席を離れるとき）は駐車ブレーキを掛け、刈取部を地面に当るまで降し、キーを抜いてください。
- 傾斜地に駐車するときは車止めをしてください。



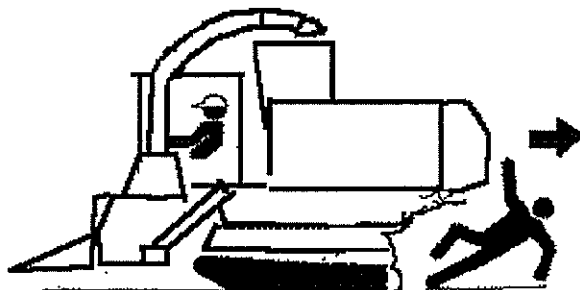
(6) 運転者以外の搭乗禁止

- 運転者以外の人を乗せて運転しないでください。
- ふり落とされたり、障害物にぶつかったりすることがあり危険です。
- 運転者は動いている機体にとび乗ったり、飛び降りたりしないでください。



(7) 共同作業の安全確保

- 補助者は運転席からみえにくい位置にいます。補助者の安全にも配慮してください。
- エンジン始動時、クラッチを入れるときは合図し、補助者のOKをもらってください。
- 補助者が機体に近づくときは、運転者に知らせることを徹底させてください。



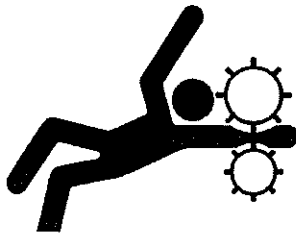
(8) 安全な収穫作業

- 異常に気付いたらすぐエンジンを止めてください。
- 危険ですので運転中に作物の巻付きや詰まりを取除くことはしないでください。エンジンを必ず止めて処置してください。
- カッタが詰まったときは、すぐクラッチを切りエンジンを止めて処置してください。
- カッタに詰まった作物を取除くときは、厚手の手袋をして、少しずつ取ってください。素手で刃先には触れないでください。
- ベルトカバー・チェンカバーなどの内部には回転物があります。危険ですのでカバーの下に手を入れたり、カバーを外したままで運転しないでください。
- 各部の掃除口、点検窓の内部には高速回転物があり危険です。掃除口や点検窓を開けるときはエンジンを止めてください。
- 作業中の衝撃などにより、不意にドアが閉まって手や身体が挟まれるおそれがある

⚠ 安全に作業するために

りますので、キャビンのドアを開放したまま、作業しないでください。

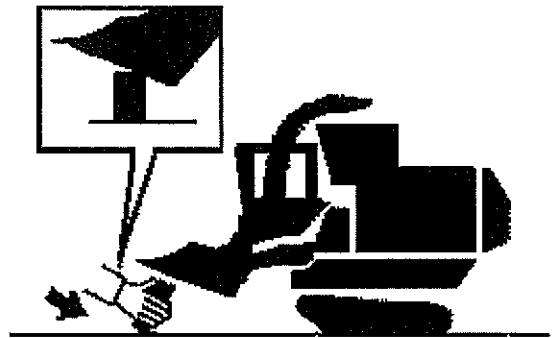
- (9) 回転しているフィードロール・オーガ・ドラム・ナイフや搬送ベルトに手や足で絶対に触れないでください。巻き込まれ、死傷する恐れがあります。



5. 点検・整備するときには

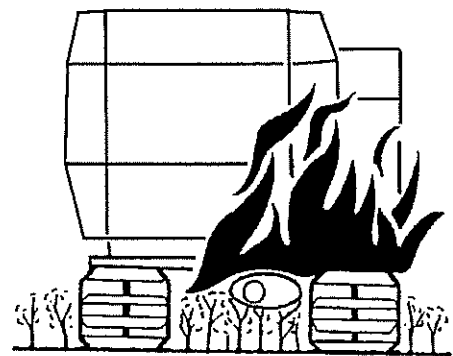
(1) 安全な点検・整備

- 点検・整備は水平で平坦な場所で行なってください。
- エンジンをかけたままでの点検・整備・清掃は危険です。エンジンを必ず止めて駐車ブレーキを掛けてください。
- 刈取部を上げて点検・調整・清掃をするとき、昇降部をロックするとともに、落下防止の歯止めをしてください。
- 刈取部の下へもぐったり、足や手をつっこんだりしないでください。
- 刈取部の刈刃・カッタ部のカッタ刃を交換するときは手袋を着用し、刃先に手が触れないようにしてください。



(2) 火災防止

- 作物くずは燃えやすく注意が必要です。
- エンジン本体・マフラ周辺・ベルトカバー内側配線部・バッテリー周辺に作物くずがたまっていると危険です。作業前、作業後に点検しきれいに取除いてください。
- 運転後作物くずの上や枯れた雑草の上に停車すると、火災の恐れがありますので避けてください。
- 機体にカバー（おおい）をかけるときは、エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災の恐れがあります。
- 電気配線の被覆が破れるとショートして火災が発生する恐れがあります。点検をして破れている部分は修理が必要です。



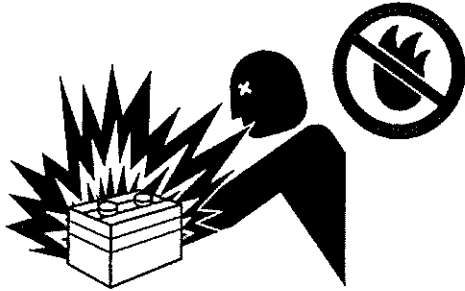
(3) バッテリーの取扱い注意

- バッテリーのガスは爆発の恐れがあります。
- バッテリーの近くに裸火（マッチ、ライター、タバコの火など）を近づけたり、ケーブルのショートによるスパークをさせ

⚠ 安全に作業するために

ないでください。

- バッテリーはエンジン始動用ですから、他の用途には使わないでください。



- バッテリーの充電時、交換時は、バッテリーの注意ラベルをよく読んでください。
- バッテリーを取外すときは、最初にマイナス（－）側のケーブルを取外してください。バッテリーを取付けるときは、最初にプラス（＋）側のケーブルをプラス（＋）側の端子に取付けてください。
- 充電は、機械から取外して行なってください。
- 密閉状態で充電を行なうと破裂する恐れがあり危険です。
- 指定外のバッテリーは使わないでください。
- バッテリー液（希硫酸）に触れると危険です。
- 目、皮膚、衣服についたときは、すぐに水でよく洗ってください。
- 目に入った時は水でよく洗った後、医師の治療を受けてください。

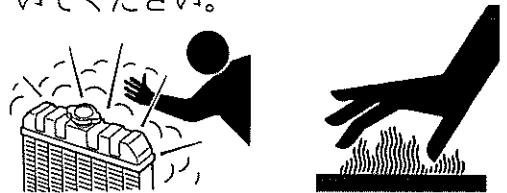


（４）ヤケド防止

- 過熱された冷却水あるいは蒸気が皮膚に触れるとヤケドします。
- 運転後のエンジン・ラジエータ・リザーブタンク中の冷却水は、過熱、加圧され高温あるいは蒸気になっています。エンジン停止後30分以上経過してからエンジンルームを開け、ラジエータキャップ

を徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから作業してください。

- 高温の油が皮膚にふれると火傷をします。
- 運転中エンジンオイル・油圧オイルは高温になります。エンジン・ホース・配管及びその他の部品も高温になっています。また残圧による油のふき出しやプラグ・ネジのとび出しによるケガの恐れがあるため十分に温度が下がって、残圧がないことを確かめて整備してください。
- エンジン本体・マフラ・排気管も高温になります。運転中及び停止直後は触れないでください。



（５）機械の改造厳禁

純正部品や指定以外の部品を取付けしないでください。

また、改造はしないでください。

（６）機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



（７）長期格納するときは

機械をきれいにし、回転部およびチェーンには十分注油して、屋内の平坦な場所に保管してください。コントロールボックスは取外して屋内の乾燥した場所に保管してください。

⚠ 安全に作業するために

(8) 人や動物を近づけない

特に子供には充分注意し、近づけないようにしてください。

(9) 回転中のタイトバーには触れない

回転しているタイトバーに巻き込まれると重傷を負うことがあります。手や足で絶対に触れないようにしてください。

(10) シェアボルトの交換や巻き付いた作物などを取り除くときはクラッチを切り、エンジンを必ず止め、回転部が完全に停止してから行ってください。



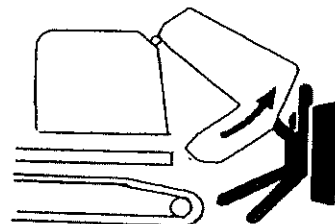
(11) 急な発進・停止・旋回・スピードの出しすぎ禁止

スピードの出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

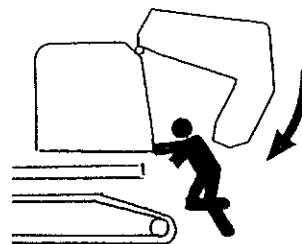
また、起伏の多いほ場や傾斜地は危険です。作業スピードは、極力落として作業を行ってください。

(12) ベールを放出するときは

ベールの放出は、後方に人がいないことや、障害物のないことを十分確認し、放出距離を考慮して放出してください。

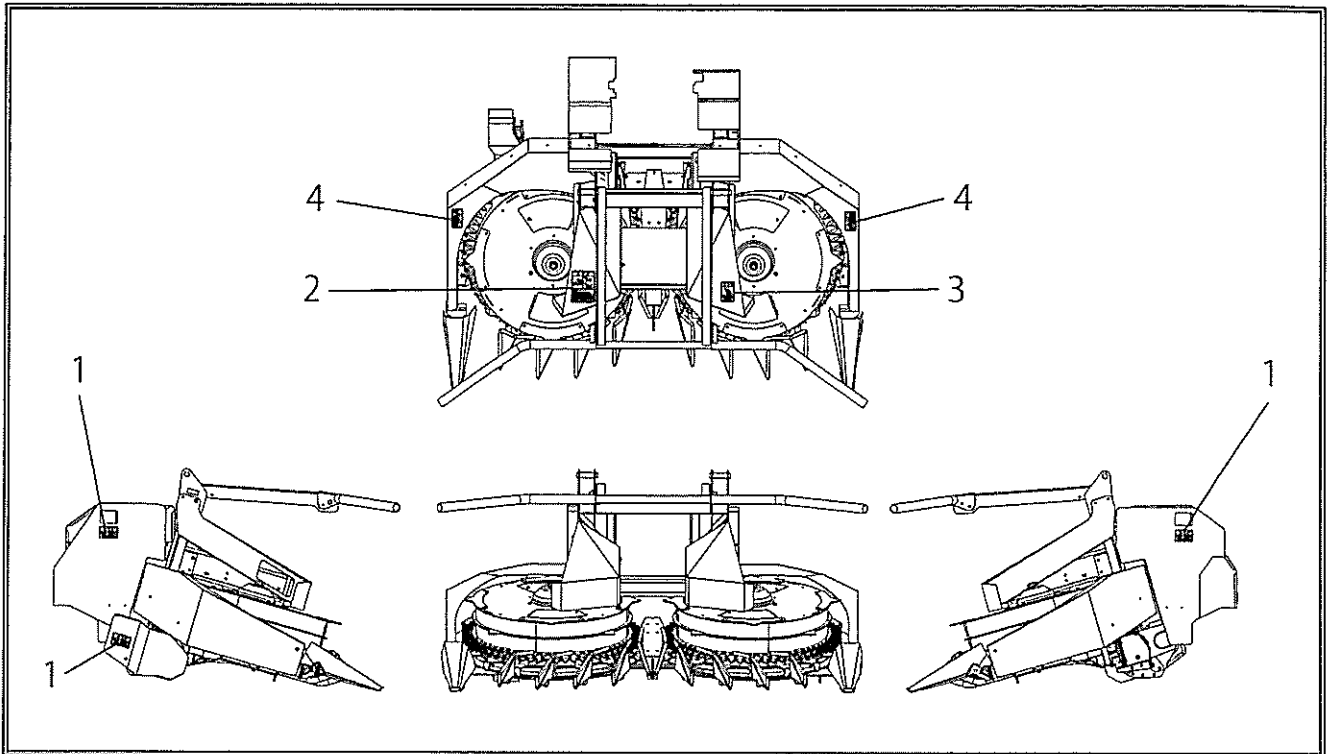


(13) チャンバーを開けて作業するときは必ずストップバルブを閉じてください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。



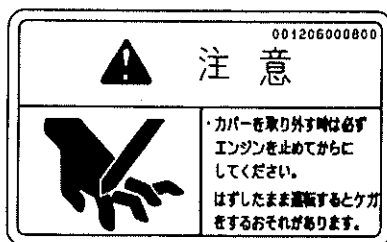
▲ 安全に作業するために

警告ラベルの貼付位置



①部品コード 00120-6000-800

②部品コード 00120-6001-991



③部品コード 00120-6000-720



④部品コード 00120-6002-000



安全に作業するために

警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、はがれた場合は、お買い上げの販売店または当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。
(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。
気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

本製品の使用目的とサービスについて

本製品の使用目的について

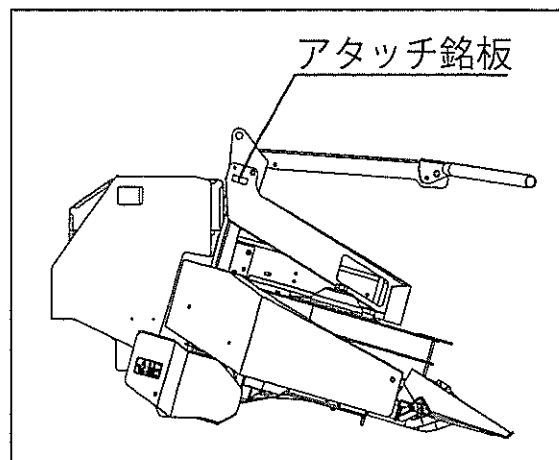
本製品は、飼料イネ、飼料麦、長大作物（コーン、ソルゴー等）を刈取り作業にご使用ください。

使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。



【連絡していただきたい内容】

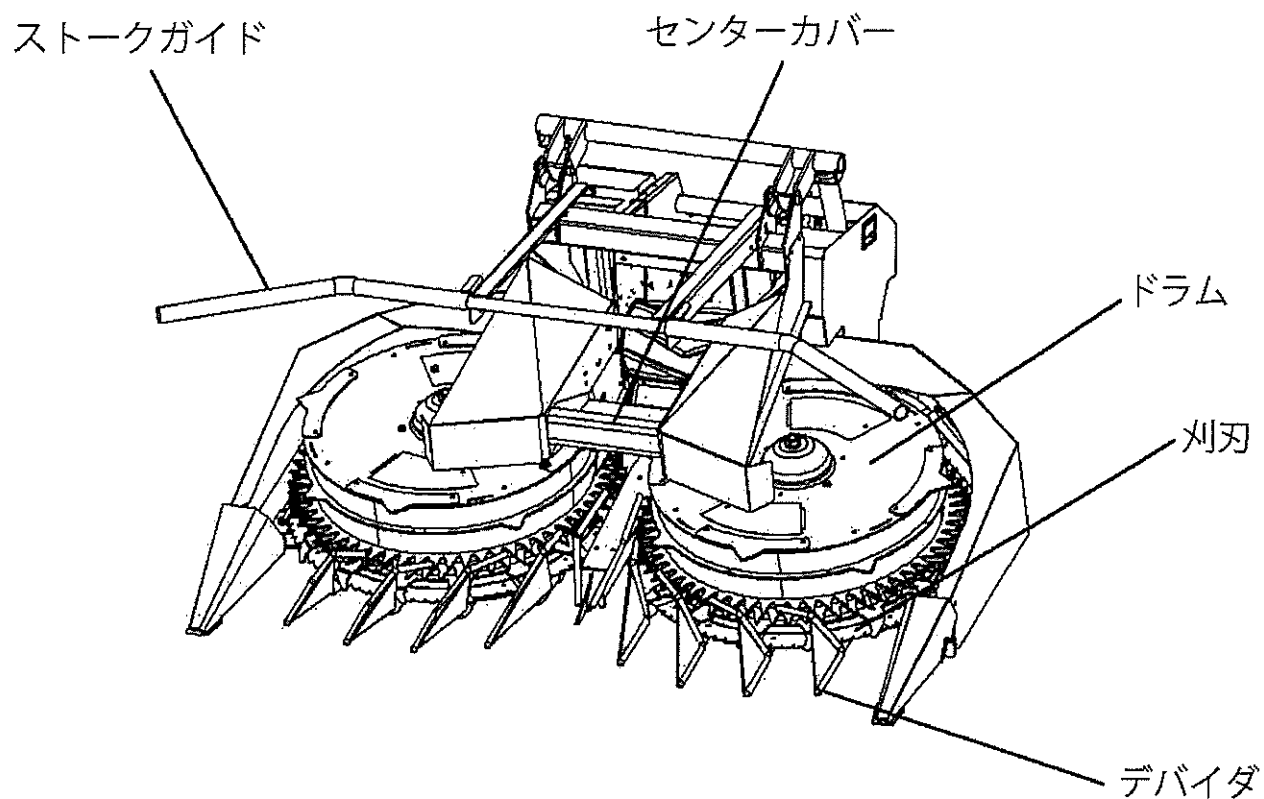
- 品名と型式
- アタッチ No.
- ご使用状況は？
（どんな条件でどんな作業をしていたときに）
- どれくらい使用されましたか？
（約〇〇アール、または約〇〇時間使用后）
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

※機体Noは、上図に示す機体銘板に打刻しております。

【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

品名	マルチヘッダ
型式	S M R - M H
機体 No. (SER-No.)	
購入年月日	年 月 日
販売店名	TEL : ()

各部の名称とはたらき



番号	名 称	は た ら き
1	ストークガイド	刈取る長大作物を囲い込みます
2	デバイダ	刈取る作物の根元を案内します
3	刈刃	作物を刈取ります
4	ドラム	刈取った作物をハーベスタ部に搬送します
5	センターカバー	刈取った作物を倒します

アタッチの着脱のしかた

(1) アタッチの着脱時の注意

⚠ 注意

アタッチの着脱を行うときは、地面が水平な場所で行ってください。

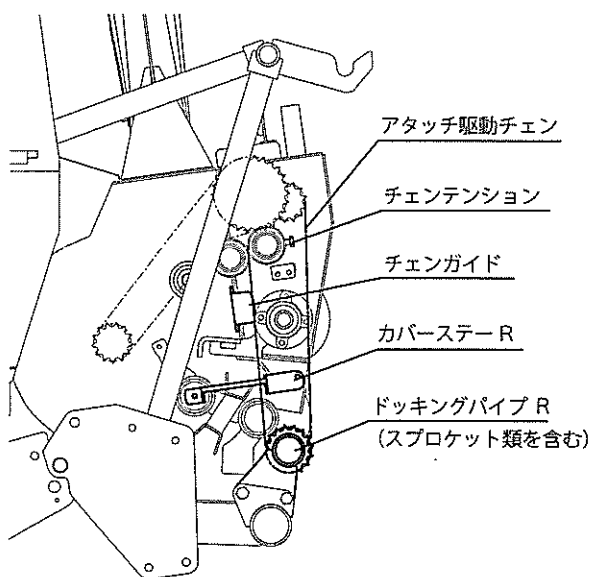
[注意]

本機のハーベスタ部にカバーが装着されていますと、アタッチの着脱ができません。

着脱時には、取外して着脱の妨げにならない場所においてください。

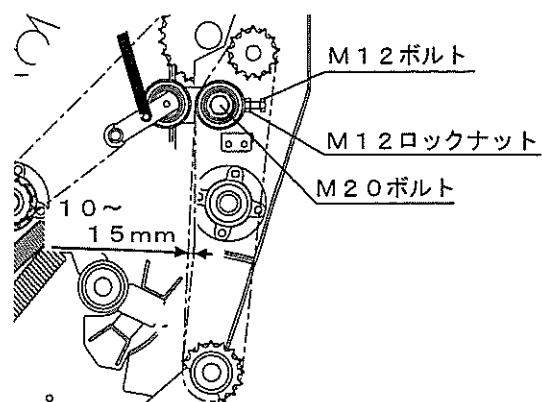
(2) 着脱準備

- ①本体右側（運転席側）のアタッチ駆動チェーンのテンションをゆるめ、チェーン・チェーンガイド・カバーステーR・ドッキングパイプR（スプロケット類を含む）を本体から取り外してください。

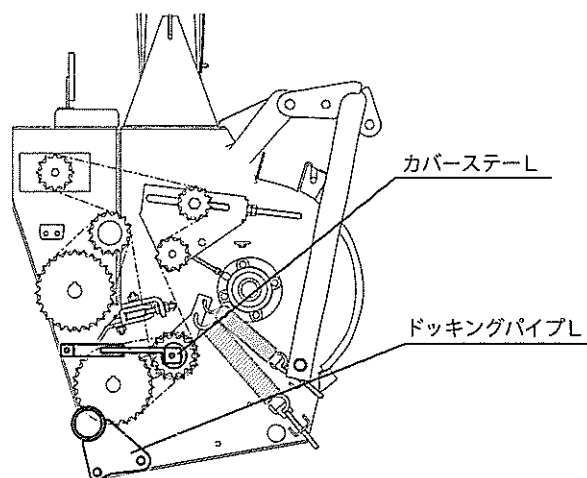


- ②マルチヘッドに付属の部品をドッキングパイプR・チェーン・チェーンガイド・カバーステーRの順に本体に組み付けてください。

- ③M20ボルトおよびM12ロックナットで下図のようにチェーンを調節してください。

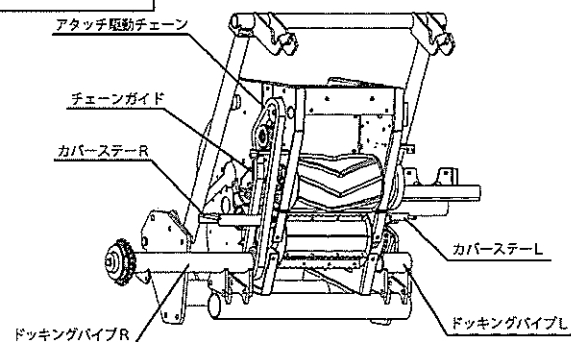


- ④本体左側のカバーステーL、ドッキングパイプLを本体から取り外してください。



- ⑤マルチヘッドに付属の部品をドッキングパイプL・カバーステーの順に本体に組み付けてください。

完成図

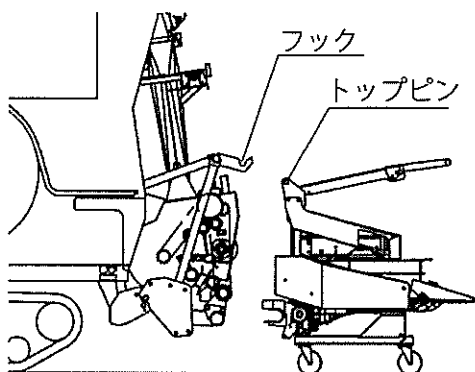
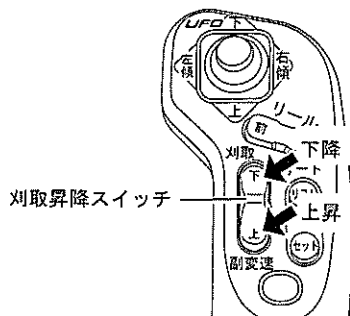


アタッチの着脱のしかた

(3) アタッチの着脱のしかた

①エンジンを始動して本機をアタッチに対して垂直にしてください。

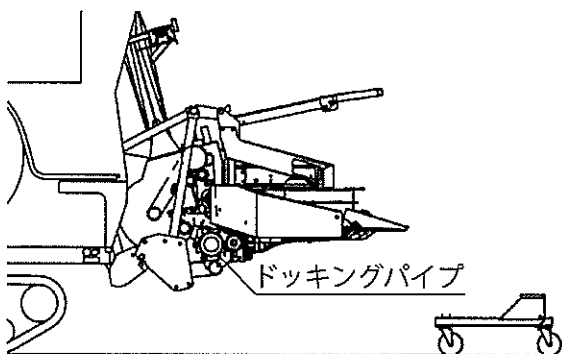
②刈取昇降スイッチで、ハーベスタを上昇または下降させ、ロックロップフレームのトップピンの下にハーベスタフレームのフックが入る位置にしてください。



③刈取昇降スイッチで、ハーベスタを上昇させ、ベースから浮く位置まで持ち上げてください。

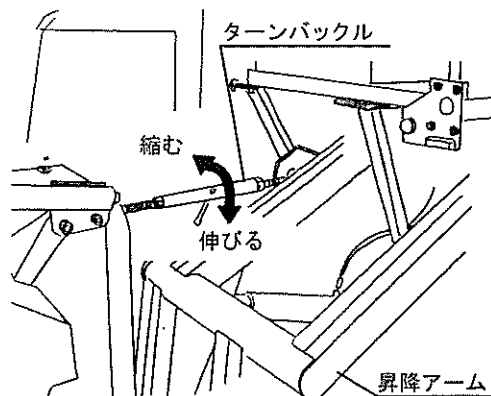
このとき、ドッキングパイプにマルチヘッドのフレームがはまり込んでいる事を確認してください。

はまり込んでいない場合は再度ドッキングを行なってください。

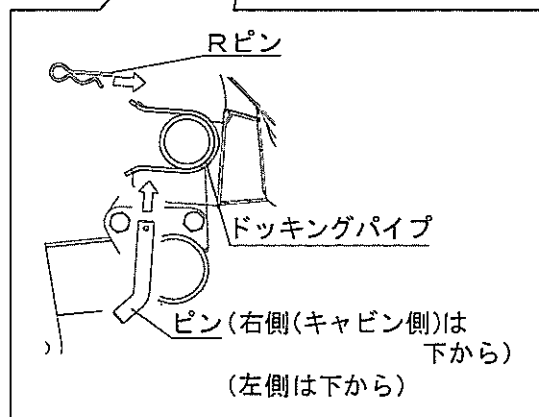
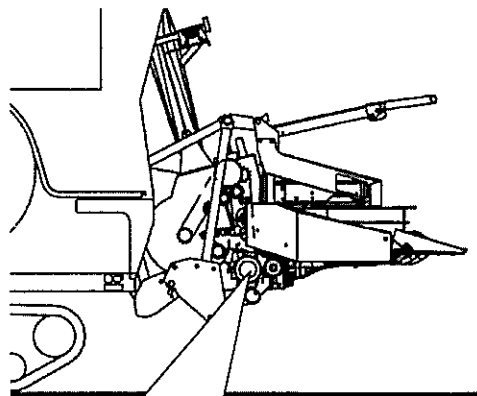


[参考]

マルチヘッドをフックで引掛ける時に、フックより先にドッキングパイプが接触し、拾い上げられない場合は、昇降フレームのターンバックルを伸ばしてください。



④昇降シリンダのストップバルブを「閉」にしピンを差し込み、Rピンで抜け止めをしてください。



アタッチの着脱のしかた

- ⑤ドッキングパイプRにマルチヘッダのテンションブラケットをM10×30（8T）で固定し、テンション

でチェーンを張ってください。

ボルト10×30（8T）

（2ヶ所）

ドッキングパイプR

6

平座金10（4ヶ所）

テンションブラケット

スプリングナット10（2ヶ所）

チェーン

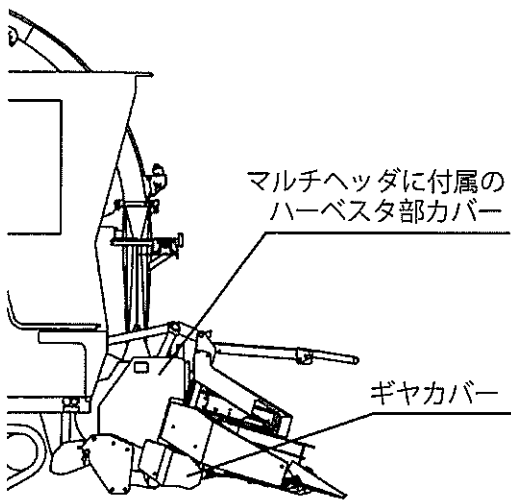
- ⑥ハーベスタ左右にマルチヘッダに付属していたハーベスタ部のカバーおよび右側（キャビン側）のマルチヘッダギヤカバーを取付けた後、昇降シリンダのストップバルブを「開」にして、ハーベスタを作業位置まで下降させてください。

【注意】

装着後初めて動かす場合は、一度ベールクラッチを「入」にして、すぐに「切」にし、接触等による異音が発生していないか確認してください。

⚠ 警告

- ハーベスタ部を上昇させた状態で、脱着の作業をする場合は、必ず昇降シリンダをストップバルブでロックしてください。
- 昇降シリンダをロックした後も、ハーベスタ部及びマルチヘッダ部の下には入らないでください。重大な障害を受けるおそれがあります。

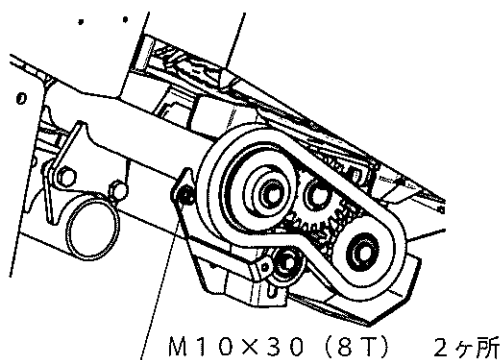


アタッチの着脱のしかた

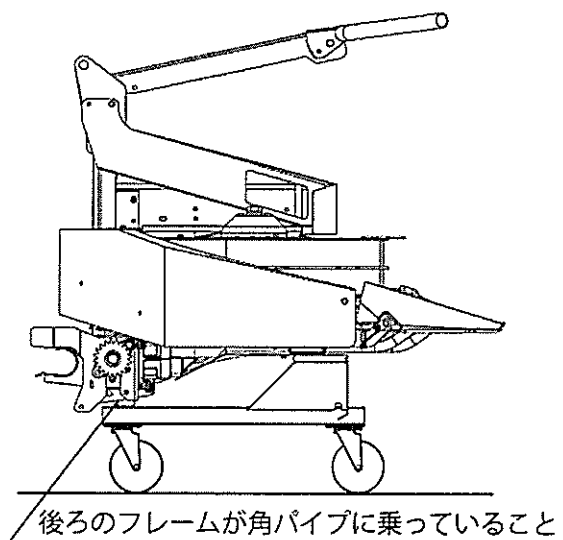
〈取り外し時の注意〉

マルチヘッドを本機から取り外す場合は以下の点に注意してください。

- ①左右のハーベスタ部のカバーおよびマルチヘッド部のギヤカバーを取り外してください。
- ②マルチヘッド駆動部のテンションを緩めチェンを外し、ドッキングパイプRとテンションブラケットの固定ボルトM10×30（8T）2ヶ所を外してください。



- ③左右のピンを外してください。
- ④ベースの上には下図のようにベースの上に確実に置いてください。



収穫作業のしかた

作物の状態やほ場の広さなどの条件により、刈取方法が異なります。作業に入る前に作物の状態やほ場の広さを確認して、能率よく作業を行ってください。

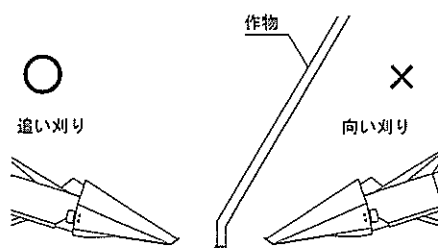
(1) 刈取りできる作物の条件について

倒伏していない長大作物（コーン、ソルゴー等）は2条、飼料稲・飼料麦等は5条刈です。

（飼料稲・飼料麦等でも生育状況によっては5条収穫できない場合がありますので、作物の生育状況に応じた収穫作業を行ってください。）

(2) 倒伏した作物の刈取り

完全倒伏した作物の刈取はできません。やむを得ず、倒伏した作物を刈取場合は必ず追い刈りでおこなってください。



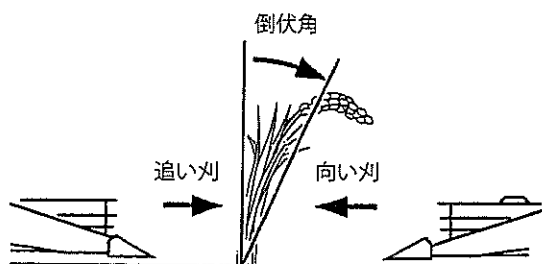
[注意]

向い刈りをするると、作物を刈取刃で刈る前に、ドラムで作物を引き込んでしまい、根ごと作物を引き抜き、本機の破損の原因となります。

(3) 刈取り方向

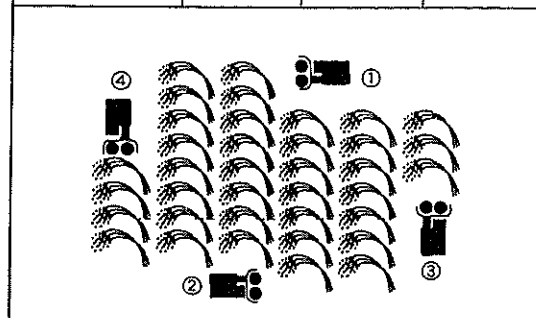
作物の倒伏状態によっては、刈取り方向が限定されます。

- 向い刈り……倒伏角70度まで
- 追い刈り……倒伏角85度まで



(副変速「低速」)

倒れぐあい	完全倒伏の場合	中倒伏の場合	やや倒伏の場合
刈る方向は			
①追い刈り	△	○	◎
②向い刈り	×	△	○
③左倒伏刈り	×	△	○
④右倒伏刈り	×	△	○



◎…刈取りOK

○…注意しながら刈取る

△…注意しながらゆっくりと

×…刈取困難

※速度の選定は、作物の状態によって決めてください。

⚠ 危険

収穫作業をするときは、周囲に十分注意をはらい、特に子供を近寄らせないでください。回転物に巻き込まれたり、旋回時の接触事故などで大変危険です。

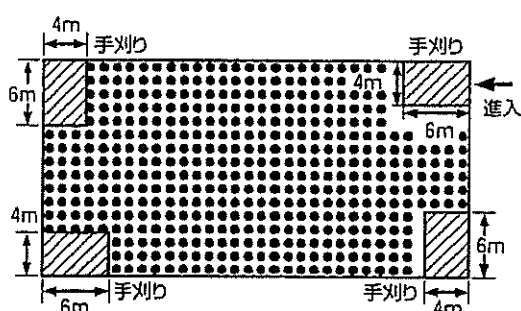
収穫作業のしかた

警告

- 後進するときは、後方の安全確認をし、低速で移動してください。
- 異常が発生したときは、すぐにエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、作業関係レバー・スイッチを全て「切」位置にしてから点検してください。
- わらくず等を取り除く場合や、作物が詰まった場合は、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、作業関係レバー・スイッチを全て「切」位置にしてください。
- 二人以上の共同作業では、ホーンなどでお互いに合図しあってから行ってください。
思わぬ傷害事故の原因になります。
- 本機をわらくずのたまった上等に止めないでください。火災の原因になります。

(4) ほ場の準備

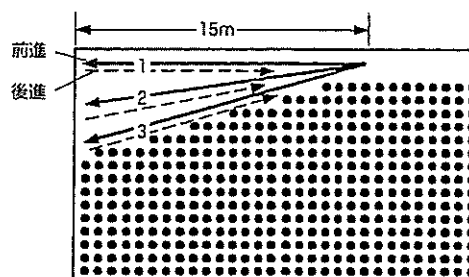
効率よく作業を進めるためには、図のように四隅（旋回できる範囲）を手刈りしてください。



(手刈りを少なくするには)

収穫作業に慣れてきたら、隅を3～4回ほど斜め刈りしてください。手刈りをほとんどしなくてすみ、能率的な作業ができます。

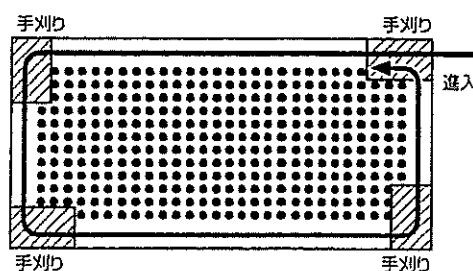
また、進入路の傾斜地が緩い場合は、低速で刈取りなら進入できます。



(5) 刈取り方法

植付け条に沿って刈取るのが原則です。従って2方向刈りを基本とし、次の要領で刈取ってください。

1. あぜぎわから、左回りで刈取ってください。



【参考】

手刈りした作物は、長大作物の場合は刈取り前の作物に立てかけ刈取ってください。飼料稲等の場合は未刈稈の上に均等にバラまき、刈取ってください。

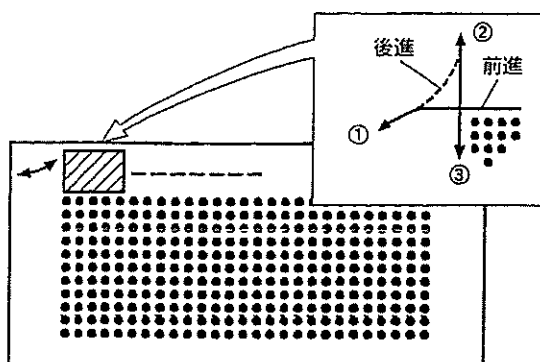
警告

手刈りした作物を、直接投げ込んで処理しないでください。

回転部に巻き込まれたり、思わぬ事故の原因になります。

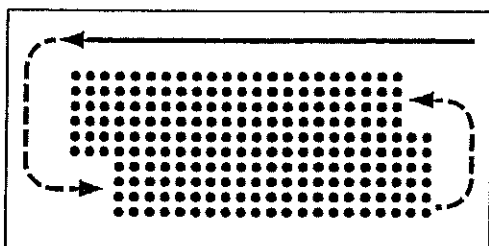
収穫作業のしかた

2. 切り返しを行い、左回りで刈り続けてください。



3. ほ場の両端で回行できるようになったら、2方向刈りを行ってください。

2方向刈り



【重要】

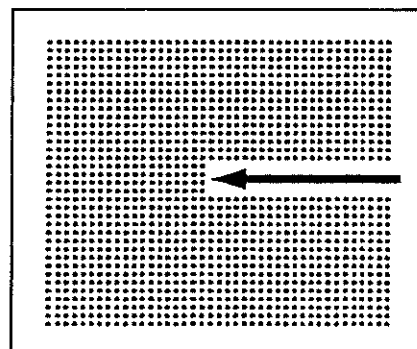
- あぜぎわ刈りのときは、デバイダをあぜに突っ込んだり、あぜにぶつけないように注意してください。
- 回行中もエンジン回転を下げないでください。ハーベスタ部に詰まることがあります。

(6) 広いほ場の刈取り方法

能率よく刈取作業をするために、広いほ場などは、中割り作業をしてください。

(自走ラップマシーンと同時作業の場合には、自走ラップマシンの走行距離を減らすことができ、作業能率があがります。)

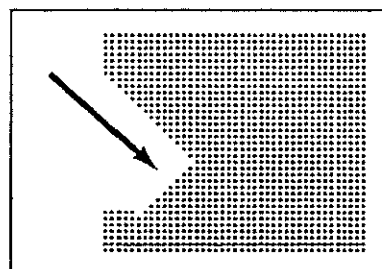
中割り



(7) 横刈り時の刈取り方法

横刈り時は、高速で作業すると刈刃に高負荷がかかるので、下記の要領で作業してください。

1. 横刈り時は速度を落としてください。
2. 高速作業をする場合は、横刈りではなく、斜め刈りをしてください。
3. 高刈りをしてください。



(8) 収穫機の準備のしかた

⚠ 警告

各部の準備・調整を行うときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。守らないと、回転部に巻き込まれたり、思わぬ事故の原因となります。

収穫作業のしかた

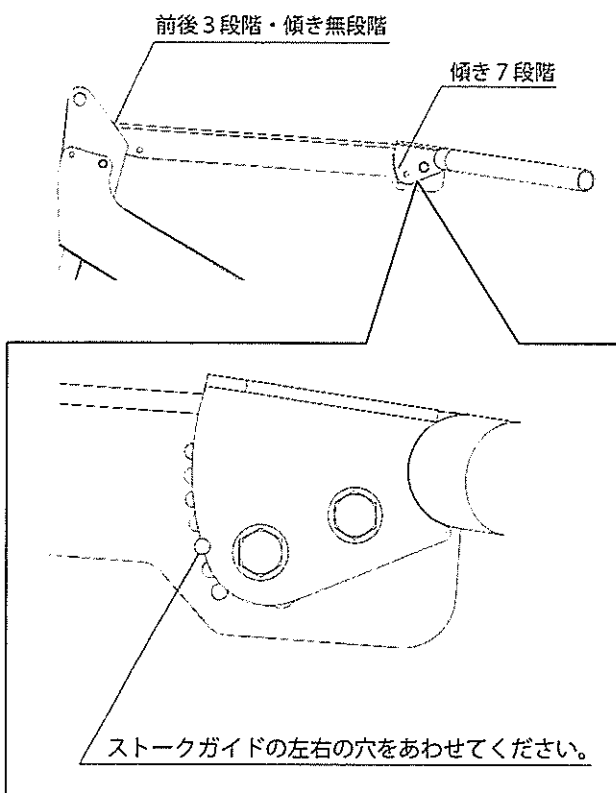


注意

取り外したカバー類は、調整後、必ず元通りに取り付けてください。

① ストックガイドの調節

長大作物を収穫する場合ストックガイドは、作物を押さえ過ぎないように、軽く当たる程度の位置に調節してください。



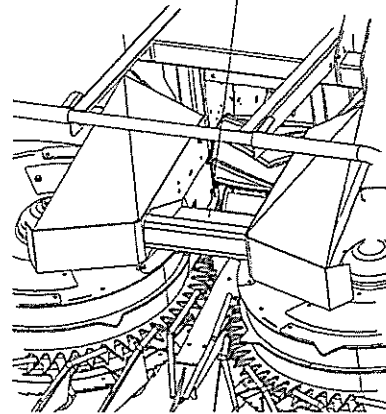
② センターカバーの位置変更

センターカバーは作物を倒す役割をします。

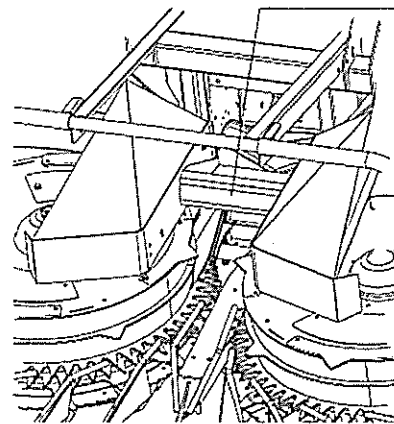
長大作物を収穫する場合は後方位置に、飼料稲等を収穫する場合は前方位置に付け替えてください。

変更せずに作業しますと、作物が詰まりやすくなります。

センターカバー前位置



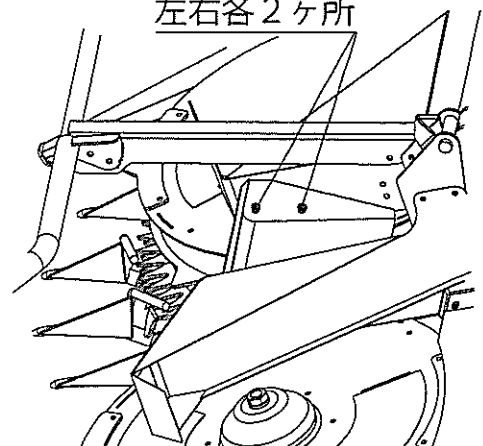
センターカバー後位置



位置の移動は、センターカバー左右各2ヶ所のM8のボルト・ナットを外し移動させてください。

移動後は確実にボルト・ナットを締めてください。

左右各2ヶ所



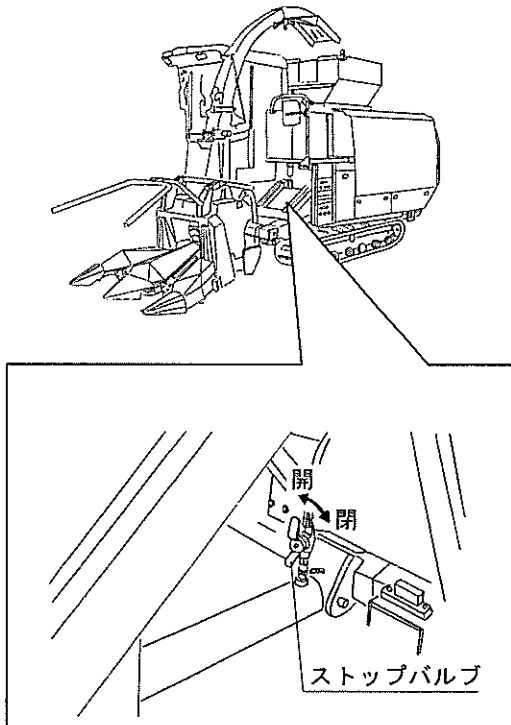
収穫作業のしかた

③デバイダの変更

飼料稲・飼料麦収穫時には中央部の刈り残し軽減のために、デバイダを以下の手順に従って変更してください。

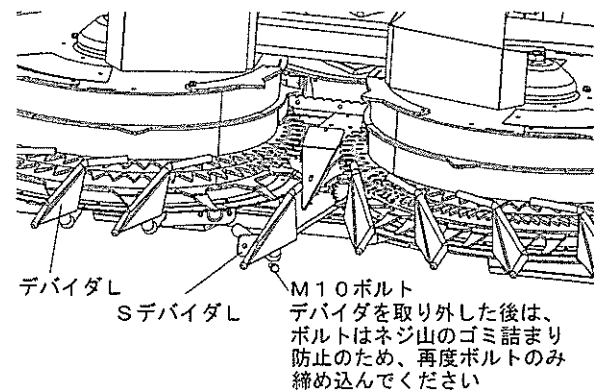
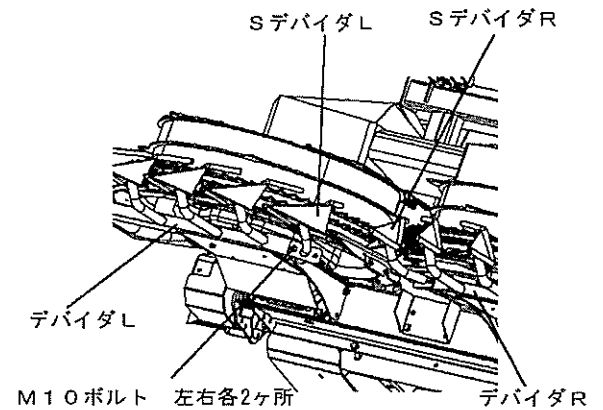
警告

- 水平で平坦な場所で行なってください。
- エンジンをかけたままでの作業は危険です。エンジンを必ず止めて駐車ブレーキを掛けてください。
- 昇降部をロックするとともに、落下防止の歯止めをしてください。

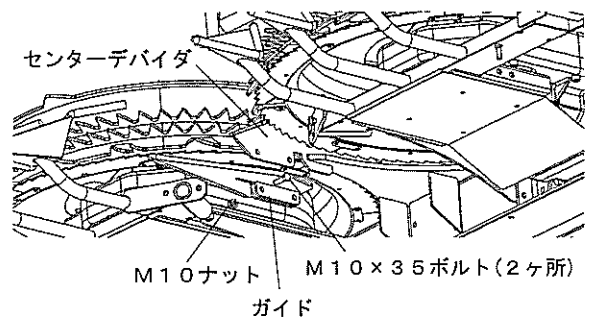


- 刈取部の刈刃に手が触れないようにしてください。

1. デバイダL・Rの中央部のSデバイダL・RをM10のボルト2本を緩め、取り外してください。
取り外したボルトは、元の位置に締め込みねじ山にゴミが入らないようにしてください。

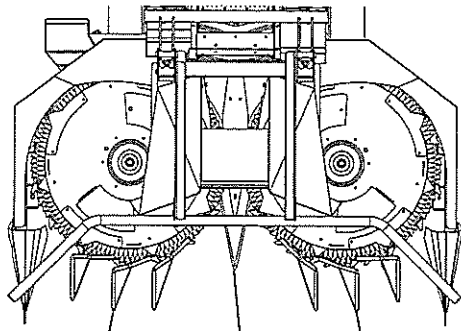


2. 中央部のデバイダにM10ボルト・ナットでガイドを固定してください。



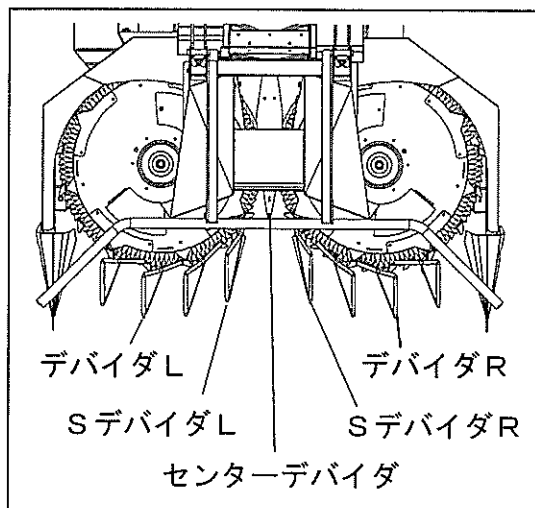
収穫作業のしかた

【飼料稲・飼料麦収穫時の機械の様子】



デバイダL ガイド デバイダR

【長大作物(とうもろこし・ソルゴー等)
収穫時の機械の様子】



デバイダL デバイダR
SデバイダL SデバイダR
センターデバイダ

作業後の手入れについて

⚠ 危険

- エンジン回転中やエンジンが熱い間は、燃料を抜いたり、注油・給油を絶対にしないでください。燃料などに引火して、火災の原因になります。
- 燃料補給や燃料を抜くときは、くわえタバコ・裸火照明は絶対にしないでください。燃料に引火して、火災を起こすおそれがあります。
- 燃料補給や燃料を抜いた後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。守らないと、火災やヤケドの原因になります。
- エンジンが熱い間は、シートなどを絶対にかけないでください。火災の原因になります。
- 油圧パッケージが熱い間は、オイルを抜いたり給油を絶対にしないでください。オイルなどに引火して、火災やヤケドの原因になります。

⚠ 警告

- 点検・整備をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてから行ってください。機械に巻き込まれてケガをするおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、平坦で安定した場所で行ってください。本機が転倒するなど、思わぬ事故の原因になります。

本体の手入れと格納についてはSMR 1000本体の取説137ページ以降を参照してください。

(1) 機体の洗浄のしかた

作業終了後、本機を水洗いし、水洗い後は下記に従って、掃除を行ってください。

- 回転部に巻き付いているゴミを取り除く。
- 水分をよくふき取る。
- 油をしみこませた布で清掃する。
- 刈刃の先端などサビやすい所にグリスを塗る。
- チェーン類、および回転部や摺動部に注油する。(144ページ参照)
- ベアリング等へのグリスアップ。

[重要]

水洗いをするときは、センサ・スイッチ・パネル・コントローラ付近、およびエンジン部・電装品に水をかけないでください。故障の原因になります。

作業後の手入れについて

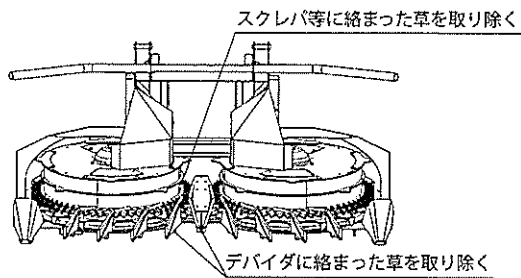
(2) マルチヘッドの掃除のしかた

⚠ 警告

- 掃除をするときは、必ずエンジンを停止して、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
- エンジンをかけたまま手入れをすると、ドラムや刈刃などで手をはさまれ、ケガをするおそれがあります。

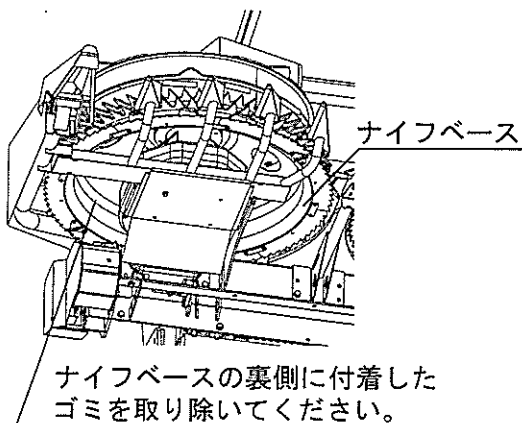
【参考】

掃除をした後は、取り外したカバーやオープンした箇所を元に戻してください。



ナイフベースの裏側に付着したゴミは取り除いてください。

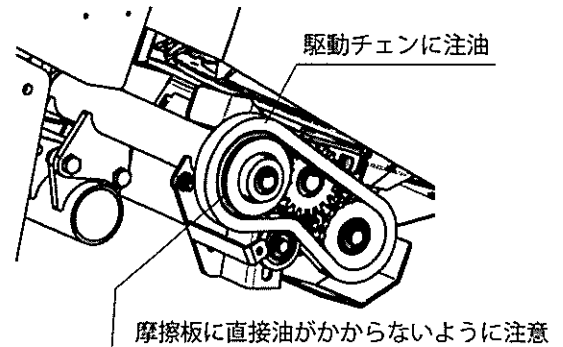
ゴミが溜まったままにしておくと、ナイフベースの回転の抵抗となり作業能率が低下します。



(3) 各部の注油のしかた

①駆動チェーンの注油のしかた

マルチヘッド右側（運転席側）のカバーを取り外してチェーン注油してください。このとき、クラッチの摩擦板に直接油がかからないように注意してください。



⚠ 注意

注油をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。ケガをするおそれがあります。

【参考】

低温時（5℃以下）には、オイルの一部が固くなり、分離しているような状態になることがあります。分離しているときは、常温に戻してから使用してください。

作業後の手入れについて

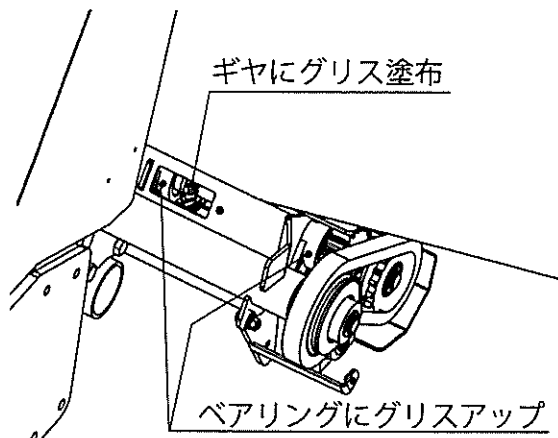
(4) 各部のグリスアップのしかた

①グリスアップのしかた

実施時期は50時間毎です。

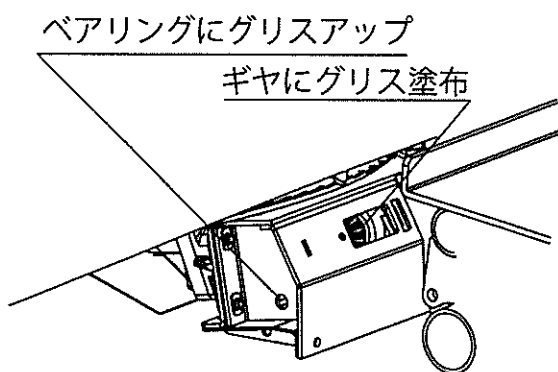
(右側)

ベアリングへのグリスアップおよびメインフレームのカバーを取り外し、ベアリングへのグリスアップ・ギヤにグリスを塗布してください。



(左側)

メインフレーム左側の穴からベアリングにグリスアップおよび、カバーを取り外しギヤにグリスを塗布してください。



各部の点検・整備

(1) 定期点検一覧表

◇点検、○：補給、●交換、□：調整（掃除）、△：給油脂							
点検整備項目	毎日	50時間 ごと	100 時間 ごと	200 時間 ごと	300 時間 ごと	600 時間 ごと	参照 ページ
ミッションオイルの点検・交換	◇	● (1回目)			●		27
◇点検、○：補給、●交換、□：調整（掃除）、△：給油脂							

(2) 規定量一覧表

点検・調節箇所	規定量	内容	参照ページ
ミッションオイル	90	ミッションオイルの交換	27
マルチヘッド駆動チェーン	10～15mm	指で押したときのたわみ量	28

(3) オイル一覧表

ミッションオイル (マルチヘッドミッション)	オイル90番	—
---------------------------	--------	---

(4) 主要消耗品一覧表

項目	負数	種類	交換時期	参照 ページ
摩擦板	6枚	フェンシング(摩擦板) (44108-3841-000))	破損・消耗時	29

各部の点検・整備

(5) ミッションオイルの交換のしかた

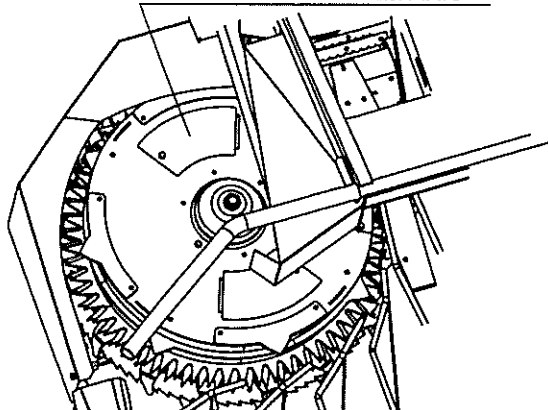
[重要]

●地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルタ・バッテリー・その他有害物を捨てる時は、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。

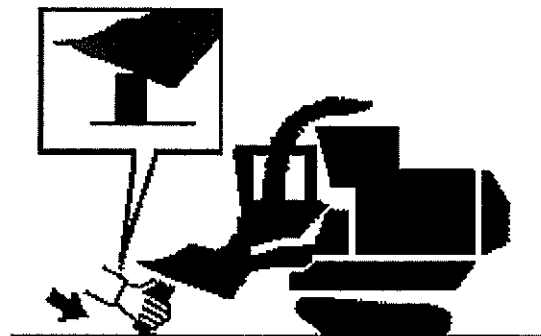
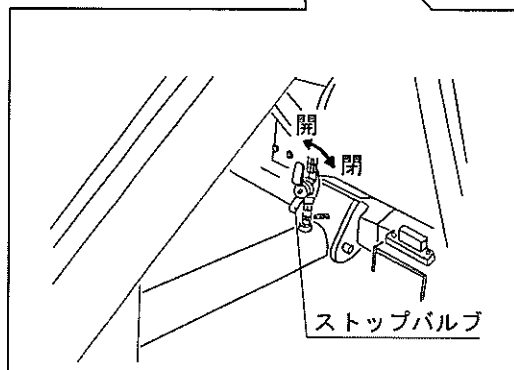
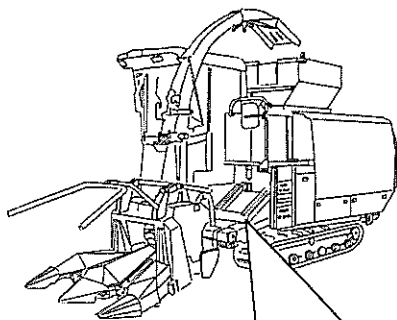
①ドラムのカバーがほぼ機体後方に来るようにドラムを回してください。

(手で動かせない場合は、作業クラッチを入り切りしてください。)

ドラムのカバーをほぼ機体後方に

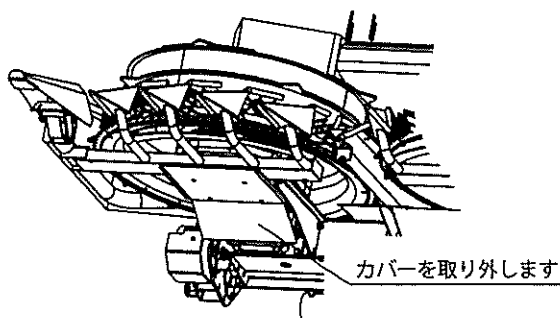


②刈取り部を上げて昇降ロックをし、落下防止の歯止めをしてください。



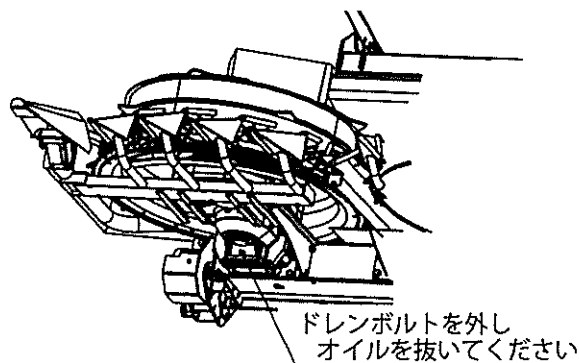
落下防止の歯止め

③ミッションの下カバーを外します。



カバーを取り外します

④ドレンボルトを外しオイルを抜きます。

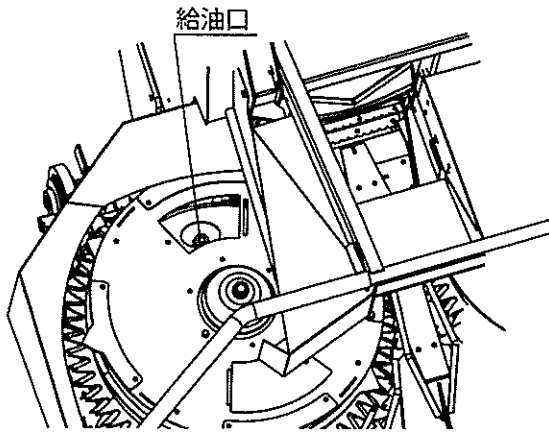


ドレンボルトを外し
オイルを抜いてください

⑤オイルが抜けたらドレンボルト、カバーを取り付け、落下防止の歯止めを外し、昇降ロックを「開」にしてハーベスタを下ろしてください。

各部の点検・整備

- ⑥上部のカバーを開け、給油栓を外し給油口からオイルを給油してください。



- ⑦給油後は給油栓をし、カバーを取り付けてください。

(6) 駆動チェーン調節のしかた

マルチヘッダのチェーンカバーを取り外してください。

下記の点検・調節をしてください。

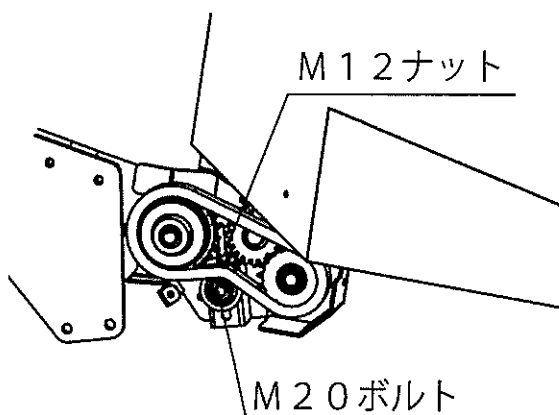
点検・調節後は、元通りに閉めてください。

〈点検のしかた〉

指でチェーンを押し、たわみが10～15 mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉

M20 ボルトおよびM12 ナットをゆるめ、M12 ナットで調節してください。



(7) トルクリミッターの調節のしかた

ドラムの回転が頻繁に止まる場合は、トルクリミッターが滑っていることが考えられます。

(マルチヘッダ起動時にはドラムの慣性力が大きいので、一瞬遅れて回転を始めますが、これは不具合ではありません。)

慣らし運転後(約10ha)調節が必要です。マルチヘッダのチェーンカバーを取り外してください。

下記の点検・調節をしてください。

点検・調節後は、元通りに閉めてください。

〈点検のしかた〉

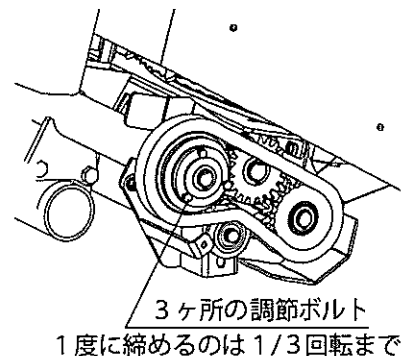
フェンシング(摩擦板)にひび割れが発生していないか確認してください。

ひび割れがない場合は、以下の手順で調節してください。

〈調節のしかた〉

クラッチについている調節ボルト

(M10、対辺14mm) 3本全てを現状位置をマーキングしてからロックナットを緩め、1/3回転(120度)右回転に回し締め込んでください。



上記の調整をしても作業中にドラムの回転が止まる場合は更に1/6回転締め込んでください。

一度に多く締めこむと、起動時に動力が一度に伝わり、シェアボルトが切れやすくなります。

各部の点検・整備

(8) フェンシング(摩擦板)の交換のしかた
ドラムの回転が頻繁に止まる場合は、トルクリミッターが滑っていることが考えられます。

(マルチヘッド起動時にはドラムの慣性力が大きいため、一瞬遅れて回転を始めますが、これは不具合ではありません。)

フェンシング(摩擦板)の交換の目安は使用状況により変化しますが、約100haです。

マルチヘッドのチェーンカバーを取り外してください。

下記の点検・調節をしてください。

点検・調節後は、元通りに閉めてください。

〈点検のしかた〉

フェンシング(摩擦板)にひび割れが発生していないか

確認してください。

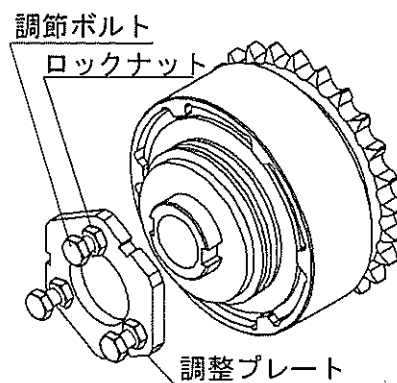
ひび割れが発生している場合は、フェンシング(摩擦板)を交換してください。

〈交換のしかた〉

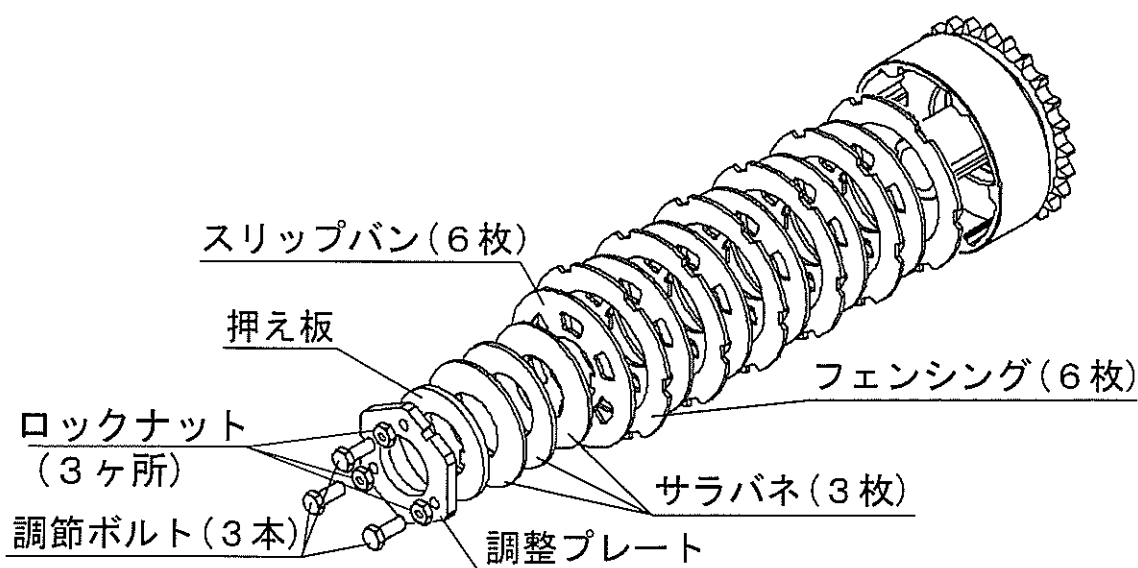
① 3ヶ所のロックナット・調節ボルトを緩めます。

(完全に外してしまう必要はありません。)

② 調節プレートを外します。

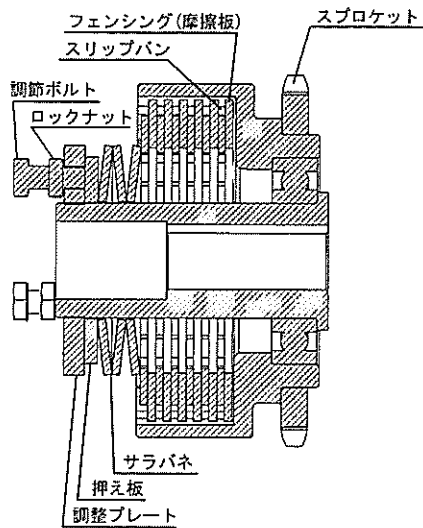


③ 下図の押え板、サラバネ(3枚)スリップバン(6枚)、フェンシング(摩擦板)(6枚)を取り外し、フェンシング(摩擦板)(6枚)を交換してください。
交換の際は必ず6枚同時に交換してください。



各部の点検・整備

- ④組み込み時には必ず元通りの順番で組み込んでください。
特に、皿ばねの方向には注意してください。



- ⑤調節プレート、3ヶ所の調節ボルトを手で締め込みそこからスパナで調節ボルトを2/3回転(240度)締め込んでください。
上記の調節をしても頻繁にすべりが発生する場合はさらに1/6回転(60度)締め込んでください。

(9) ナイフの交換のしかた

ナイフには表と裏がありますが、どちらの面を上にしても使用できます。
ナイフを交換する場合は下図のようにナイフを組み付けてください。

